

# 緩和ケア学習会

2月10日に緩和ケア委員会が企画した学習会を開催しました。緩和ケアチームのMSW 宮川さんが講師となり、「がん患者・家族が抱える生活上の課題への支援-『社会的苦痛』への理解を深める」というテーマでした。看護師・薬剤師・MSW 約40名の参加がありました。

講義では社会的苦痛について実際の事例を用いて説明があり、患者さんが発した言葉の根底にある思い・状況を考える機会になりました。参加者が過去に体験した患者さんの言葉を医療者役・患者役になってロールプレイを行い、患者さんの気持ちを考えることが出来ました。10分ほどのロールプレイでしたが、どのグループも会話がとぎれることもなく様々な体験を共有することにつながりました。医療相談センターへの依頼は、診断期・治療期ではなく終末期が多いという現状が説明され、早期からの緩和ケア提供にはまだまだ課題があると実感しました。

質疑応答では、社会的苦痛をとらえられるように患者さん・ご家族の思いを聴くことの大切さに気付くことが出来ました。問題が明確になっていなくても気になったことがあれば医療相談センターや緩和ケアチームに相談してよいとの情報提供があり、今後の相談増加・全人的苦痛への対応につながることを期待されました。

今年度の委員会目標である、「全人的苦痛のアセスメントの強化」の活動に関わる学習会が盛況に終わることが出来て、一安心しました。今後がんの患者さん・ご家族のみならず、緩和ケアを対象とする多くの方によりよいケアが提供出来るように委員会活動を充実させていきたいと思っております。

